

映画評

一般映画

『あやしい彼女』

西松 優 日本映画研究者

2016年 松竹 125分

監督 水田伸生

脚本 吉澤智子

出演 多部未華子、倍賞美津子、小林聡美

この作品は韓国映画のリメイクで、老女が若返って巻き起こすファンタジーコメディだが、吉澤智子の脚本が生きることとの価値・昭和への強い郷愁・『ローマの休日』へのオマージュを織り込み、オリジナルを超える秀作となった。

73歳のカツ（倍賞美津子）は、離婚し出版社に勤める娘の幸恵（小林聡美）と、バンド活動に夢中の孫の大学生翼と3人暮らして、戦災孤児仲間だった次郎（志賀廣太郎）の銭湯で働いている。カツは働き詰めで生きてきたため、娘の出世と自分の苦労だけが自慢だが、娘とケンカしひよんなことから20歳に若返ってしまう。若返ったカツ（多部未華子）は、昔あこがれた映画『ローマの休日』のアン王女の髪型・

服装を真似てみるが、それ以外に何をしたいかがわからない。黒澤明監督の『生きる』では主人公の市役所の課長は、残り少ない命を住民のための公園作りに使った。カツはこの若い命を家族（孫）に賭ける。やはり人は自分のためだけに生きるのではなく、人のために役立てたいのだ。

カツは得意の歌唱力を武器に、孫の翼のバンドを一流にするためボーカルを務め、路上ライブを敢行し音楽プロデューサー拓人（要潤）の目に留まり、バンドは注目を浴びていく。カツが歌いながら小学校の教室から路上ライブにカメラが転換し、投げ落ちた帽子に聴衆の投げ銭が集まるショットは直線的でこれからの上昇を予感させ見事だ。また、カツが、苦勞した時代を回想しながら昭和の名曲をテレビで歌うシーン、多部の素朴で心に響く歌い方と相まって、観客それぞれに切なく懐かしい昭和の日々を思い起こさせ自然に映画に没入していく。

カツの拓人への思いは恋心へと変わっていき、楽しい思い出もできるが、孫の翼が事故に遭い、カツに緊急な献血が迫られる。献血をすれば老女に戻ってしまう。クライマックスは、カツの新たな幸せを勧める次郎と幸恵、孫を救いたいカツのせめぎ合いで、多部、小林、志賀演技派3人の力量が遺

憾なく発揮される見ごたえある場面だ。並みの役者がやると作品自体が凡庸なものになってしまっただろう。

『ローマの休日』のアン王女のようにカツの休日は終わる。老女に戻ったカツが翼の演奏会場で拓人を一瞥するが、夢に終わった恋の余韻を感じさせる倍賞の演技が光る。

劇中はテンポがよく、ポップなテーマ曲から昭和の名曲に切り替わるエンディングまで飽きさせない。レンタルもあり、一度この映画を見ていただきたい。

